

# 香北中に行ってきました！

## 在校生による中学校説明会が始まりました

# グロ探通信

03号

★編集★  
グロ探  
通信班

代表の中田さんと松永さん



あつという間に7月が来て、期末試験さえも終わってしまいましたね。夏休みもすぐそこまで来ています。時間の経つ速さが年々上がっている気がして恐ろしいです。さて、少し時間をさかのぼりますが、6月に中学校訪問がありましたので、その様子レポートします。


6月6日(木)は香北中学校での説明会でした。訪問団のG探代表は、1年生で香北中学校出身の中田美晴海(みはな)さんと、2年生で鏡野中学校出身の松永真衣香(まいこ)さんでした。2人とも、緊張していたと話してはいたものの、とても落ち着いていた説明です。2人に感想を聞いてみたので、お伝えします。

——中学校訪問に行ってみて、どうでしたか？  
**中田**「発表前は少し緊張もしたけど、生徒や先生のほとんどが知っている人で、その人たちの前では何度も発表してきたので、途中からは楽しんで説明できました。」  
**松永**「中学生の頃の私よりは、その場に合わせることで自分の言葉で伝えることができたと感じました。」  
——中学生はどんな印象でしたか？  
**中田**「香北中は探究活動を行っているので、「探究」というワードに慣れているなと思います。メモを取りながら真剣に聞いてくれて嬉しかったです。」  
**松永**「たくさんメモを取ってくれていました。もし何かアドバイスできることがあるとするなら、質問や感想の発表を頑張ってみてもいいかもしれません！」

——中学校訪問に、在校生が出向いて直接話すことに、どんな意義があると思いますか？  
**中田**「先生だと先生の視点でしか伝えられないのに対し、現役の生徒だと中学生がいずれなる姿に近いので、同じ目線で話すことができるため、中学生がいえるような想像をしやすいのではないかと思います。」  
**松永**「中学生の表情を見ながら話せるので、中学生の反応から自分たちへの学校・学科への印象を、私たち自身が感じとることができることが意義ではないかと思います。」


**いろんなファンタジーの世界が味わえる！**

題名：この本を盗むものは      作者：深緑野分



本の街、読長町。そこには御倉館と呼ばれる巨大な書庫がある。主人公・御倉深冬はその管理人の父を持つが、本が好きではなかった。しかし、ある日、御倉家から本が盗まれてしまい、警報装置—ブック・カーサー—が発動する。気づけば、御倉館のある読長町は、呪いによって物語の世界へと姿を変えてしまっていた。月がウインクし、蔦が蔓り、アスファルトが泥濘む。深冬は物語と化した町をもとに戻すため、本泥棒を捕まえる冒険に出る…。

奇妙で恐ろしげ。そして、たくさんのワクワクに満ち溢れた世界にのめり込んでみませんか？ (2-3 谷まゆみ)



ざいしました。残り4校分の中学校訪問の記事も、ぜひ楽しみにお待ちください。今号から不定期連載と

して、2年生の谷まゆみさんによるお勧め本のコーナーが始まります！どんな本を紹介してくれるのか、楽しみです！